



全日本実業団ニューイヤー駅伝の地区予選「九州実業団毎日駅伝」では、1区の漆畑瑠人選手がハイペースに苦しむも7位で中継。2区・3区で順位を落としてしまいましたが、4区古賀淳紫選手の走り流れを取り戻します。エース区間である5区鈴木創士選手の好走で6位に浮上。7区の大畑和真選手が更に順位を上げ、総合5位でフィニッシュしました。

ニューイヤー駅伝のメンバー選考を兼ねた11月・12月のトラックレースでは、合田椋選手、漆畑瑠人選手、鈴木創士選手が10000mの自己ベストを更新。この3人の記録は、安川電機歴代上位に食い込む好タイムであり、チームとしても明るい材料となりました。また、12月に開催された甲佐10マイルロードレースでは、古賀選手が自己ベストに迫る記録を出し2位、

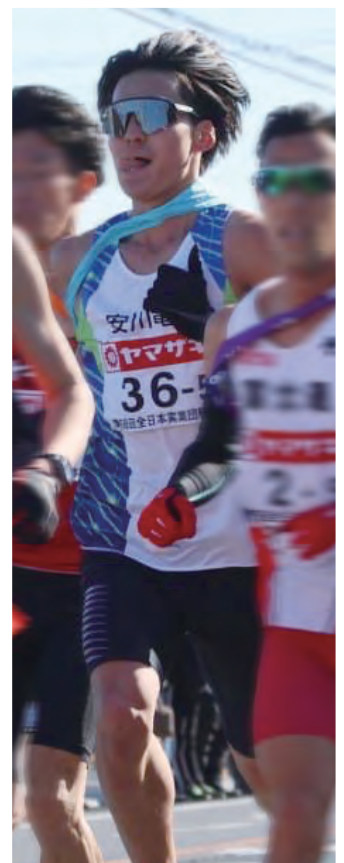
漆畑選手が初の10マイルで8位に入賞するなどチーム全体の勢いを付けることができました。

元旦のニューイヤー駅伝では、1区岡田浩平選手が出遅れてしまい厳しい展開になりましたが、2区の古賀選手が22人抜きを披露し13位まで浮上。4区モゲニ選手が順位を落としても、5区合田選手の好走で再度13位まで順位を上げました。7区最終区の鈴木創士選手が意地の走りで順位を上げ、総合12位でフィニッシュ。目標であった8位入賞には届かなかったものの、若手選手を中心としたメンバーで戦うことができ、収穫のあるレースになりました。

来年は更にレベルを上げて、8位入賞を勝ち取ります。引続き安川電機陸上部へご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



ニューイヤー駅伝での集合写真



合田椋選手



選手コメント

合田 椋

10月の合宿後に疲労骨折が判明し、11月の毎日駅伝には出走できず悔しい思いをしました。足が完治してからはその悔しさを原動力に練習を積み重ね、12月の記録会では10000mの自己ベストを更新しました。12月中旬は調子がなかなか上がりず、焦る気持ちもありましたが、ニューイヤー駅伝直前になってから一気に調子を上げることができ、5区では最低限の役割を果たすことができました。チームとしては目標であった8位入賞には届かなかったため、来年は個人・チーム共にレベルを上げ、8位入賞できるよう精進していきます。